

音楽療法士への道



渡島医師会
望ヶ丘医院

ふじ さき しほこ
藤 崎 志保子

2021年初春から夏にかけて音楽療法士を目指して受験しました。

いろいろと面白い体験でしたのでご報告します。

現在、日本における音楽療法士資格は民間団体認定資格のみです。複数の団体が、それぞれ認定しており一本化されてもいません。取得方法も難易度もバラバラで、小学校の夏休みの宿題程度レベルのレポート提出によって数万円で取得できる通信講座認定資格も世の中には存在しますが、だいたいは、認定校（ほぼ音楽学校で占められ、リハビリ系が1～2校混在）を卒業後、試験合格により資格を取得できるものが主流です。今回挑戦したのは、かの日野原重明先生が初代理事長をされていた日本音楽療法学会による認定音楽療法士で、2000年頃に私が興味を持ち始めた頃は認定校コースのみでしたが、数年前に必修講習会コースというのができまして、今回は20年越しの挑戦となりました。

受講前試験というのがあり、受験資格は、1) 日本音楽療法学会正会員であること、2) 2年以上の専門学校、高専、短大、大学いずれかを卒業、3) 臨床経験～医療、教育、福祉、心理いずれかの現場で対象者と直接関わる5年以上の経験と、ここまでのハードルは難なく越えました。問題は、4) 音楽を利用した臨床経験2年（音楽を使用して対象者と直接かかわる経験を指す。演奏するだけの行為は認められない）を有することでした。ボランティアでも可とのことでしたので、キリスト教会での奏楽経験（前奏などでリラクゼーション、讃美歌伴奏、聖歌隊の指導など）は認められるかと問い合わせたところ、可否の分かりづらい返事が返ってきました。認められなければ一次書類審査で落ちるだろうと、とりあえず関係書類（願書、各種証明書など）と受験料15,000円を4月初旬に郵送し、2次審査の準備にかかりました。

2次審査は、筆記試験「楽典」「小論文」と、実技試験「ピアノ演奏」「弾き歌い」。

楽典は中高生時代にかじった内容レベル。小論文は、全国音楽大学入試問題集から拾ったテーマで練習という作戦を立てましたが、最大の難所は、論文形式の文章を「鉛筆と消しゴム」で「時間内」に「漢字に変換してくれるソフト無し」で書くという行為でした。大人の財力を発揮し、良さげなシャープペンと消しゴムを何種類も購入し、懐かしの原稿用紙に時計を睨みながら綴りまくる毎日を過ごしまし

た。ピアノ演奏はソナチネアルバムから1曲。子ども時代に何も考えずに弾かされていた曲集には、1冊1,210円の中に珠玉の小品が30曲も収録されていて、そのコスバの良さに改めて感動しつつ楽しく練習。弾き歌いは、課題曲を自分で作った伴奏で弾き歌うのですが、課題曲が全て見事に「昭和」。伴奏コードで楽しめそうな1曲を選択し、「ば～らが咲いた～♪」と連日弾き歌っていました。

一次審査合格の通知が来たのは6月1日。オリンピック直前でCOVID-19の流行が急速に拡大してきた頃で、オンライン形式での二次審査となりました。楽典と小論文は自宅のパソコンで解答記述、実技は録画した動画を送信という、かなりラッキーな展開で、二次審査も無事合格しました。

合格した後は、定められた講習会出席+課題提出（期日厳守）、学会への研究発表（必須）、学会出席ポイント集めなどのカリキュラムを2年3ヵ月で終了し、筆記試験合格で認定音楽療法士（補）、さらに、面接試験合格で、認定音楽療法士となる長い道のりです。それでも当時の私はやる気満々でしたが、ここで事件が起きました。

上記の項目に加えて、音楽療法関連分野（医学、心理学、福祉、教育）を放送大学で18単位取得が必須でした。大学などで履修した科目は単位として認めるとのことでしたので、医学関連は全て認められると思っていたのです。蓋を開けてみると、認められたのは教養時代の「心理学」と、何を習ったかも覚えていない「医学概論」のみでした。提出した成績証明書には、教養部は単位が記録されているが、成績しか記録されていない学部のもは単位として認められないと通知が来ました。履修していなければ卒業できず、国家試験も受けられないことを必死に説明しましたが、返答は「専門科目群で時間数も明記がないので、これは明らかに医学部生の専門に特化したものとみなされ、ご報告させていただきました科目のみが対象となるかと判断いたしました。音楽療法関連分野では専門科目に特化した科目は対象としておりません。」という、今読み返しても訳がわからないものでした。これを見た瞬間に、スーッと熱が冷めていく音が聞こえました。今更、放送大学で「人体の構造と機能」やら「疾病の成立と回復促進」などの単位を取得するために時間と費用をかける気にはどうしてもなれず、挑戦はここで終わりました。

私の音楽療法士への道は半ばで潰えましたが、音楽療法そのものは、もっと理解され利用されるだけの価値はあり、いつか、何らかの形でお手伝いができたら幸せだなと夢見ています。